

## 事例7 効果的なICT端末の使用で、思考力、判断力、表現力等の向上をねらった事例

○学年 第4学年

○主な領域 絵に表す活動

○事例のポイント

- ①児童が考えを共有して見合い、話し合うことで、新たな考えを見付けるきっかけとする。
- ②既習を想起する活動を設定し、自分の思いに合わせて試行錯誤する中で、技法を選ぶことができる。

ICTを活用した主な学習場面

・児童が発想や構想をする場面

### ICT活用の利点

- ①データ共有アプリ内に児童が考えたことを保存して蓄積することで、学級全体の児童の考えが一覧となって見やすくなったり、いつで児童が考えたことや作品を見返すことができたりする。
- ②描画アプリを使用することで、容易にアイデアスケッチをかくことができる。具体的には、やり直しが可能であることや、彩色も容易である。
- ③作品の写真と自分の振り返りや友人からの感想をデータとして保存することができる。

#### 1 題材名 「キテレッツ山ヘレッツゴー!!」

【第4学年】A表現(1)イ、(2)イ、B鑑賞(1)ア、〔共通事項〕(1)ア、イ 絵に表す活動

#### 2 題材について

- (1) 児童の実態 (略)
- (2) 本題材を指導するに当たって (略)

#### 3 目標及び評価規準 (※〔共通事項〕(1)ア、イはア\_\_\_\_\_、イ\_\_\_\_\_で示す。)

##### (1) 題材の目標

- ・ 様々な技法を試すときの感覚や行為を通して、形や色などの感じが分かる。
- ・ 絵の具やクレヨン、パスを適切に扱うとともに、前学年までの絵に表す活動についての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。  
(知識及び技能)
- ・ 面白い山の形について想像したことから、表したいことを見付け、表したいことを考え、形や色などを生かしながら、どのように表すか考える。
- ・ 自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方について、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。
- ・ 様々な技法でかかれた絵の形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつ。  
(思考力、判断力、表現力等)
- ・ 楽しく様々な技法を試して、そこからもったイメージを基に表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、作りだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとする態度を養う。  
(学びに向かう力、人間性等)

##### (2) 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 <u>様々な技法を試すときの感覚や行為を通し</u>	発 <u>様々な技法でかかれた絵の形や色などの感じを基に、自分のイメージをもちながら、面</u>	態 <u>作りだす喜びを味わい、楽しく</u>

<p>て、形や色などの感じが分かっている。  <b>技</b> 絵の具やクレヨン、パスを適切に扱うとともに、前学年までの<u>絵に表す活動</u>についての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。</p>	<p><u>白い山の形について想像したこと</u>から、表したいことを見付け、表したいことを考え、形や色などを生かしながら、どのように表すか考えている。  <b>鑑</b> <u>様々な技法でかかれた絵の形や色などの感じ</u>を基に、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方について、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。</p>	<p><u>様々な技法を試して絵に表したり、鑑賞したりする学習活動</u>に取り組もうとしている。</p>
---	---	---

※それぞれの評価規準は「内容のまとめりごとの評価規準（例）」を、そのまま使用したり、具体的な学習活動を踏まえ言葉を省略や変更したりするなどしている。（下線部は変更箇所）

#### 4 指導と評価の計画（全6時間扱い）

○：指導に生かす評価、◎：全員の学習状況を記録に残す評価

時間	学習のねらい・学習活動	評価の観点、評価方法等					備考
		知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
		知	技	発	鑑		
①・②	<ul style="list-style-type: none"> <li>面白い山の形をたくさん考えたり、それらを組み合わせたりして、考えを共有する。</li> <li>考えた山の形から、表したいことを見付けて、アイデアスケッチをかく。</li> </ul>			◎ 観察 対話 ワークシート			<p>「思考・判断・表現（発想や構想）」は、児童自身が考えたり、共有したりした様々な形から表したいことを見付けているかという視点で評価する。</p> <p>※アイデアスケッチで児童が表そうとしていることを確認して、適切な指導に生かす。</p>

3	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習の様々な技法を試しながら、表したいことを考え、形や色などを生かしながら、どのように表すか考える。</li> </ul>	○	○	◎ 観察 対話 作品		<p>「思考・判断・表現（発想や構想）」は、様々な技法を試しながら、発想や構想をしているかという視点で評価する。</p> <p>「技能」に関しては、「思考・判断・表現」と関連して見取ることで学習状況を把握し、指導に生かす。</p> <p>「知識」に関しては、「思考・判断・表現」と関連して見取ることで学習状況を把握し、指導に生かす。</p>
4 ・ 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>用具を適切に使い、様々な技法を試し、表したいことに合わせて表し方を工夫する。</li> </ul> <div data-bbox="375 1131 646 1198" style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">事例のポイント②</div>	◎ 観察 対話 作品	◎ 観察 対話 作品			<p>「知識・技能」は、用具を適切に使い、様々な技法を試しているのかという視点で評価する。</p>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童同士で自他の作品を鑑賞して、造形的なよさや面白さ、表現の意図や特徴などを感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。</li> </ul>			◎ 観察 対話 作品 感想	◎ 観察 対話 作品 作品カード	<p>「思考・判断・表現（鑑賞）」は、作品の感想の記述や対話を通して、自分の見方・感じ方を広げているかという視点で児童の学習状況を把握し、記録に残す。題材全体を通して「主体的に学習に取り組む態度」は児童の学習状況を把握し、最後に記録に残す。</p>

5 本時の学習（本時 1・2 / 6時）

(1) 目標 様々な技法でかかれた絵の形や色などの感じを基に、自分のイメージをもちながら面白い山の形について想像したことから、表したいことを見付け、表したいことを考え、形や色などを生かしながら、どのように表すか考える。

〈思考力, 判断力, 表現力等〉

(2) 準備

○教師：画用紙（一辺が10cmの正方形）一人5枚程度、大型モニター、ワークシート

○児童：ICT端末、筆記用具

(3) 展開

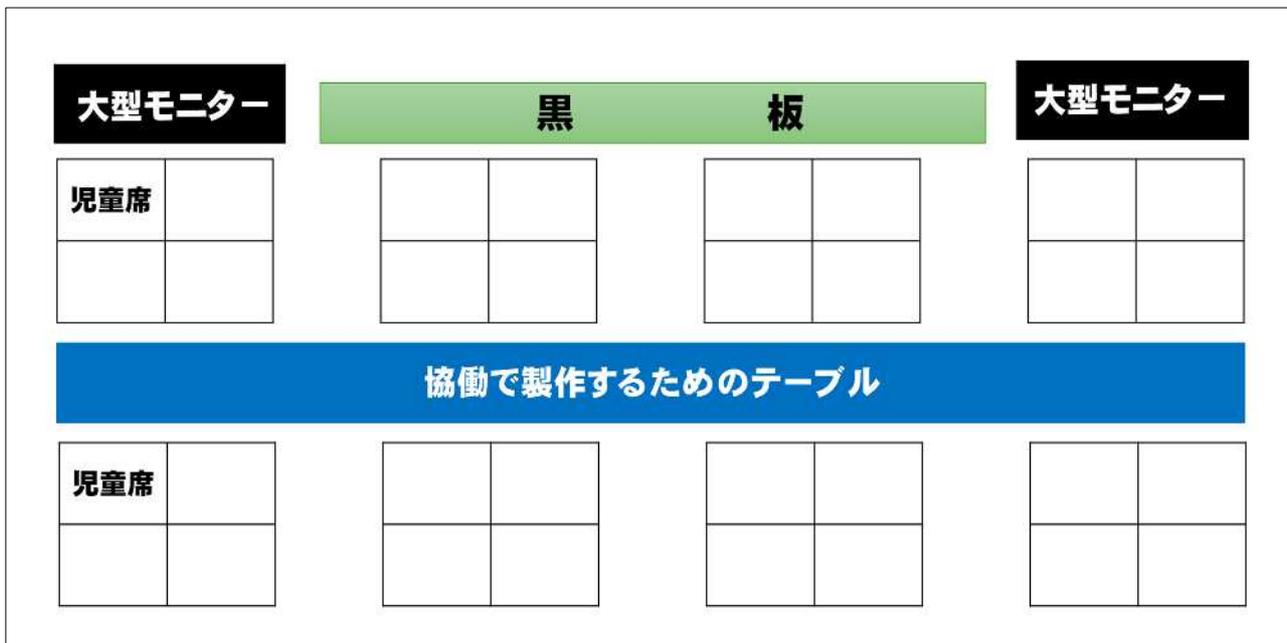
過程時間	学習活動 予想される児童の 具体的な姿（「」）	指導の工夫 〔〔共通事項〕に係る内容 ア____、イ_____〕	評価と手立て 【観点】：評価規準（評価方法） ◎：十分満足できる状況 ◆：B評価に達しない児童への手立て
導入 10分	<p><b>提案</b> 自分しか思い付かない山の形をたくさん考えて、アイデアスケッチをかこう。</p> <p>1 本日のねらいを知り、活動の見通しをもつ。 「キテレッツ山ということは、どんな形でもいいんだな。色々な形を組み合わせてかいてみようかな。」</p>	<p>○自分しか思い付かない形をたくさんかいて共有した後に、そこから形を選択してイメージスケッチを行う内容だと伝える。</p> <p>○児童の実態に合わせて、児童が自由に選択できるように、紙ベースのワークシートと描画アプリ（3Dペイント）を用意する。</p>	<p>【<b>態</b>】 つくりだす喜びを味わい、楽しく様々な形を見付けて絵に表したり、鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。 （観察・対話）</p> <p>◎進んで形を思い付いたり、形について友人と話し合ったりしている。</p> <p>◆一緒に形について考えたり、友人のものを見たりする。</p>
展開 70分	<p>2 面白い山の形をたくさんかいて、データ共有アプリ（ClassCloud）にアップロードして友人の考えを見る。 「火の形と山を組み合わせているね。」</p> <p>3 自分の思いに合わせて、キテレッツ山のアイデアスケッチをかく。 「描画アプリを使うと色が自由に変えられるから、二枚目は背景を黒色にしよう。数枚かいて保存して後から選ぼう。」 「人が寄り付かない山にしたいから、ギザギザの線をかいて山の形をかこう。前の時間のアイデアのストックも見てみよう。」 「この山は人が寄り付かないのだけれど、明るい色をたくさん使って、山の幸も採れるようにしよう。」</p>	<p>○かいた形は、写真撮影して、<u>データ共有アプリにアップロード</u>するように伝える。また、画用紙についても図画工作室真ん中の活動するテーブルに並べるようにする。</p> <div data-bbox="587 1339 1061 1662" data-label="Image"> </div> <p>〈データ共有アプリ上の児童の画像〉</p> <div data-bbox="593 1713 1066 2038" data-label="Image"> </div> <p>〈アプリ内の画像を見て考える児童の姿〉</p>	<div data-bbox="1125 1317 1433 1384" data-label="Section-Header"> <p><b>ICT活用の利点①</b></p> </div> <div data-bbox="1098 1393 1449 1624" data-label="Image"> </div> <p>〈テーブルに並べられた画用紙を見る児童の姿〉</p> <p>【<b>思・判・表</b>】 様々な技法でかかれた絵の形や色などの感じを基に、自分のイメージをもちながら面白い山の形について想像したことから、表したいことを見付け、表したいことを考え、形や色などを生かしながら、どのように</p>

<p>展開 7 0 分</p>	<p><b>事例のポイント①</b></p> <p><b>ICT活用の利点②</b></p>  <p>〈描画アプリを使用する児童の姿〉</p> <p><b>ICT活用の利点①</b></p> <p>編 P111 指導計画の作成の留意事項(2)</p>	<p>○児童自身が考えた形や学級全体で共有した形、それらを組み合わせる形など様々に見て、山の形を考えるように伝える。</p> <p>○描画アプリを使用する場合は、自分が気に入ったら削除せずに残すように伝え、数枚ワークシートのデータに貼り付けるようにして保存するように伝える。</p> <p>○描画アプリでかいたものをプレゼンテーションソフト (PowerPoint) に画像を貼り、山の特徴や形や色などを書き込むことのできる枠をつくり、その中に考えをまとめるようにする。紙ベースのワークシートも用意し、児童が選択できるようにする。</p> <p>○データ共有アプリにアイデアスケッチをアップロードするように伝える。</p> <p>○形や色などの感じが分かるようにするために、児童のアイデアスケッチを形や色の観点で児童と対話する。</p> <p>○形や色などの感じを基に自分のイメージをもつために、児童のアイデアスケッチを様々な角度から見たり、児童の考えを組み合わせたりするように声をかける。</p>	<p>表すか考えている。 (観察・対話・ワークシート)</p> <p>○児童自身が考えたり、共有したりした様々な形から新たに表したいことを次々に見付けている。</p> <p>◆児童と形について対話したり、データ共有アプリを見るように声をかけたりする。</p>  <p>〈ICT端末を利用してまとめた児童のアイデアスケッチ〉</p>
<p>整理 1 0 分</p>	<p>4 データ共有アプリを見て、本時の活動を振り返る。 「みんなの心の中にある形と色のイメージが面白い。さらにかきたいものが浮かんだよ。」</p>	<p>○データ共有アプリの中から教師が選んだ児童のアイデアスケッチを基に、「自分しか思い付かない」という視点で学級全体で振り返る。</p> <p>○アプリを使い、振り返り、保存することで次時につなげる。</p> <p><b>ICT活用の利点③</b></p>	 <p>〈アプリを見ながら本時を振り返る姿〉</p>
<p>知=「知識・技能」の知識に関する評価規準、<b>技</b>=「知識・技能」の技能に関する評価規準、<b>発</b>=「思考・判断・表現」の発想や構想に関する評価規準、<b>鑑</b>=「思考・判断・表現」の鑑賞に関する評価規準、<b>態</b>=「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準を表す。 ※【記録に残す評価】は□、【指導に生かす評価】は○で示している。</p>			

## 6 補足

- (1) 在籍児童数 34 名
- (2) 場の設定

図画工作室前方の黒板付近に大型モニターを2台配置した。また、中央には児童が協働できるようにテーブルを配置した。今回は、児童が考えた面白い形をかいた画用紙を並べて置くことで、児童が見に来て、自然な対話が生まれるようにした。(展開内の写真〈テーブルに並べられた画用紙を見る児童の姿〉参照)



〈図画工作室環境図〉

【事例のポイントについて】

事例のポイント①は、児童から出た多くの形について児童同士が見合うことで、自然とお互いの考えた形のよいところについて話し合う姿が見られた。

事例のポイント②は、既習を生かした内容になるように、既習を想起するように導入を工夫する。また、児童が試行錯誤できるように用具の準備や場の設定をする。

【ICT活用の利点について】

ICT活用の利点③は、データ共有アプリの機能として、それぞれのアップロードした画像に対して感想を投稿できる機能があり、児童が友人のアイデア等を見るときに参考にしたり、よいと思ったものに対してコメントしたりできる。また、「いいね」等のリアクションボタンもあり、気軽に友人のアイデアに対して、よいところを認めることができる。そして、他の題材に進んだ際も過去の題材を確認できるため、既習を生かした製作を行うことができる。

【第3時以降の授業について】

【第3時】 様々な技法を試しながら、表したいことを考え、どのように表すか考える。

〈児童の姿〉

既習を想起しながら自分の表したい技法を選択して試行錯誤して表していた。3年生時に行ったにじみの技法や1学期に行ったモダンテクニックを試している姿が多く見られた。

【第4・5時】 用具を適切に使い様々な技法を試し、表したいことに合わせて表し方を工夫する。



〈絵に表す児童の姿〉

〈児童の姿〉

これまでの学習を生かして、アイデアスケッチを参考にしたり、児童同士で作品を見合いながら、さらに自分の思いを絵に表したりしていた。

時折、ICT端末にアップロードされた画像や友人からもらった感想を見ながら、活動している児童もいた。特に形の面白さを追求したり、色の組合せについて様々な思考したりする際に役に立っている様子だった。

【第6時】児童同士で自他の作品を鑑賞して、造形的なよさや面白さ、表現の意図や特徴などを感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。



【題名】キテツ山のっとり大作戦

凄いカラフルだね 🌈 炎があるだけでとってもいいなと思うよ！

「どんな大作戦なんだろう？」と興味をもちますね！  
色は、できるだけ違う色を使っていいね！  
形も、「これなんだろう？」と思いました！  
面白い複雑な形！！

〈アプリ内の児童の作品と友人の感想〉

〈児童の姿〉

まず、児童が自分の完成した作品の写真と題名、作品の説明をコメント欄か作品票でデータ共有アプリ内にアップロードするようにした。その後、学級全員で全ての作品を見て、友人の作品に対して、よいところを見つけて、コメントとして各児童がアップロードした作品の下に投稿するようにした。鑑賞の観点として、「形や色」、「発想」、「技法」を示した。

コメントのやりとりを児童同士で行うことで、児童が自分の作品を肯定的に捉える姿や、友人の作品のよいところを観点に沿って見たことで見方や感じ方を広げている姿が見られた。また、実際に生の絵を見たいという意見も児童から出たため、作品を黒板に貼り付け、全員が鑑賞できるようにもした。

### (3) 完成した児童の作品



「ほのおのようにもえる山」



「夢を運ぶ鳥の山」



「神様の手助け」